

災害防止研究所 #5会議 (20181126 1610~1800) 議事録

○ 参加者 (10名)

吉田明生 名取禎 佐藤慶太 佐々木宏 里雅之 宮岡隆 江口亮 杉山さとし
根本大輔
山口剛

○ 議 事

1 議題等 (吉田)

(1) 第4回会議以降の動き等

ア 情報提供 (吉田)

- (ア) 大分県の防災監と懇談
全国の防災関係者にアンケートを依頼 (80名程度の予定)

イ 情報提供 (佐々木)

- (イ) 災害食「認証制度」日本災害食学会所属の新潟大学が主導
団体として広範囲の普及が困難という課題あり→そのような課題解決を当
研究所が協力連携し解決できないか
(イ) イオンがローリングストックを推進しようとしている

ウ 資料紹介 防災関係各種団体の現況 (宮岡)

各種団体が存在する中で当研究所がどのように進んでいくか

(2) 議 題

ア 制作物確認 (山口)

- (ア) 名 刺：納品場所 ウッドオフィス
(イ) 封 筒：案通り
(ウ) ハンコ 使用目的は領収書・請求書
社名・住所・代表者名を三分割できる形式のものに変更
(エ) プレゼン資料：各人がページを取捨選択し使用
a 各ページの大項目は青枠・黒文字、中項目は枠無し黒文字に修正
b 振込先：記載済み
c 表紙の写真：「山」の写真に修整
d 問い合わせ先：問い合わせにはメールで対応、電話は削除
(オ) HP：つくりを説明

- a 理事等の顔写真はそのまま掲載
- b 全員の一覧は当初は削除に修整
- c 定款はPDFで掲載
- d 年会費の振込先は現行通り掲載
- e 内容・構成は概成、あとは修正と細部の創り込み
- f メール（各人）の設定 OS・アプリの確認 12.07位までに設定する

イ 「強くなろうニッポン！キャンペーン」：審議事項無し

エ 「事業運営と収益配分の基本的考え方」（吉田）

(7) 資料（案）に基づき説明

- a 認証等の手数料を収益とし、運営
- b 事業企画への参加はボランティア
- c 安定した運営のために収益の5%を基金とする
- d 当面の事業運営について
里さん・佐藤さんの事業をメインとする。当面の活動経費は現メンバーからの会費の徴収又は基金とし、収益が上がった時点で還元する。
- e 既支出は吉田さん支払
- f 会員には機関紙の発行・配布で還元
- g 収益の細部の配分については意見聴取を行う
- h 全般について次回に再度検討・意見聴取を行う

(イ) 質問・意見

（佐藤）全般の事業計画が必要なのではないか
コストや問題点が明確になるのではないかと

（吉田）大枠を作成する。細部の中身は各担当でお願いしたい

(ウ) モノマガジン訪問について

（佐藤）土居さんとの調整では、基幹本の出版についての形式は共著と監修がある。共著は社内での調整に時間を要する。監修は合意を得やすく、1000部を65%の価格で買い取りが目安だろう。どちらを取るかと。

（吉田）研究所の宣伝広告になり社会的認知を得られるメリットがあるのでモノマガジン社内で合意を得やすい監修で行きたい。

（佐々木）現状では好条件ではないかと

ウ 阪急イベント企画（里）

(7) 資料に基づき説明

研究所の全般事業計画があればその小項目を表現してみたものといえる
全般計画があれば、このイベントの位置付けが明確に説明できる

(イ) 質問・意見

（佐藤）入場者が1000人以上であれば成功といえるのでは

- 入場料を取るか取らないかの検討も必要では
- (里) 協賛会社からどこまで協賛金を得られるかによるが、大人数の入場が見込めるほうが良いのでは
阪急百貨店はローリングストックに関心を持っている。
- (佐藤) 集客のためには、派手なイベントが必要では
- (里) ローリングストックと関連付けができてお金のかからない「イベント」が必要
将来的には大阪万博に防災イベントとして出展ができるのが理想
その前に幕張にも出展できれば
阪急では、ローリングストックを協賛企業からサンプルとして供出してもらいお土産として配布や試食ができれば入場者増は期待できる
- (佐藤) 協賛会社の商品の売り上げからも収益が得られれば良い
遊びながら防災のテーマの中身を覚えてもらえれば良い

オ 認証制度

(7) 資料に基づき説明 (吉田)

a 全般

検討する中で、何を認証するかが明確にならない
何処で収益を上げるか、どういう制度を特色とするかの検討が必要

b 細部

(a) 認証の種類と評価内容

1 危機管理

例えば損保等との連携で認証を取っていたら保険料の減額というものもある。企業の社内研修を活用する方法もある。

2 商品

消費・賞味期限のラベル

3 ドローン

防災士のシラクを持ち災害時にドローンを運用する際の資格を認証

4 サービス等

例えば家庭の中の安心・安全を得るもの（応急手当等）やサバイバル等を組み合わせ最終的に資格を付与もある

(イ) 質問・意見

(佐藤) やることはシンプルにしたほうが良い。資格を取得している社員がある一定の比率に達した企業に認証を与える方法もある
教育のプログラムを作る必要があるだろう
個人（社員）に対して座学・テストを行い、そののち実技を行い段階的に級を付与するというやり方もある

(吉田) 一案を考察する。自衛隊の思考過程で進めていきたい

(佐藤) 認証は、機能性・汎用性等のアナログ評価と数値基準等のデジタル評価の組み合わせが必要になろう

2 次回の会合

12月18日（火）16時～ 於：ウッドオフィス5F会議室

以上